

Fockewulf Fw190F8/R14

eduard 1/144スケールプラスチックキット改造
製作・文 政府開発援助

1. Fw190について

フォッケウルフFw190シリーズは当初、メッサーシュミットBf109の補佐機として開発が開始された。運用面の利便性に重きを置いた機体といえ、やがてドイツ空軍の主力機となっていった。シリーズには戦闘機型のA型、襲撃機型のF型、長距離戦闘爆撃機のG型、液冷エンジンに換装した高々度戦闘機型のD型（究極のレシプロ戦闘機」と評されるTa152はD型の発展型）等の各型があり、それぞれにサブバリエーションタイプが存在した。R14タイプはLTF5b航空魚雷の装備を可能とした雷撃機型を指す。

2. キットについて

キットは比較的新しいもので、フォッケウルフの無骨な感じをよく捉えており、しっかりした凹モールドの入ったキットです。A8とF8の胴体機銃カバー部品が付属し、胴体下の装備も増槽と爆弾から選べます。キャノピー部品はやや厚みがありますが透明度は申し分なく、予備も入っていて有り難い限りです。デカールはロシア戦線とチェコ戦線のものが付属します。

3. 製作と塗装について

製作に当たってはレベルの1/72 F8/R14のキットを購入し、立体定規として用いています。

- ・ノーマルのF型からの変更として、
- ・外翼及び機首機銃の撤去
- ・ETC501ラックの502ラックへの変更
- ・LTF5b航空魚雷の搭載
- ・垂直尾翼面積の増大
- ・尾輪支柱の延長

等を行いました。魚雷はアライの97艦攻の先端を延長し、後端にプラ板にてフィンを追加しました。垂直尾翼やETCラックはキットの物を芯にエポキシパテ等で成型しています。尾輪の取り付け軸は長いステンレス線に替えました。プロペラ軸は径の異なる真鍮管を組み合わせてスムーズに回る様にしています。

塗装はRLM76（グンゼ 缶スプレー）を吹き、スーパークリア光沢（グンゼ 缶スプレー）でコートした後、レベル1/72キットの塗装図を見ながら筆塗りで迷彩塗装を行いました。終戦直前のフランスブルクの機体です。塗り分けにはエナメルカラー（タミヤ）を用い、RLM74はフィールドブルー + 明灰白色、RLM75はダークグレイ + 明灰白色、RLM82は濃緑色 + 明灰白色、RLM02はRLMグレイ + スカイ、RLM66のみジャーマングレイをそのまま使用しました。ぼかし部分は溶剤を含ませた綿棒で軽く叩いてみました。プロペラプレートはラッカー系のブラックグリーンです。キット付属のデカールの貼り付けに失敗してしまい、レベルのキットのデカールをスキャンしてMDプリンタで作成しました。最後にいつものガンダムマーカーでスミ入れし、モデラーズのとや消しクリアでツヤを整えています。



前面



後面

4.製作過程



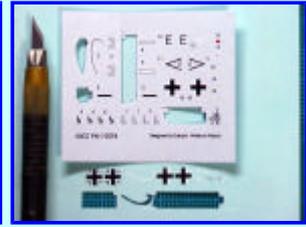
ほぼ完成した機体。垂直尾翼の面積を増しているのがわかるだろうか。



エナメルシンナーから樹脂を守る為、スミ入れとクリアーコートを実施してからぼかし塗装を行った。



接着を待つばかりの小部品。魚雷は流用パーツとプラ材、尾輪はステンレス線にて延長。



デカールはキットのもの(上)でなくMDプリンタで自作したもの(下)を使用した。